

プロジェクトマネジメント業務の自動化による効率化と さらなる高度化に向けての今後の取り組み

TIS株式会社

ビジネスイノベーションユニット
プロジェクトマネジメントビジネス推進部

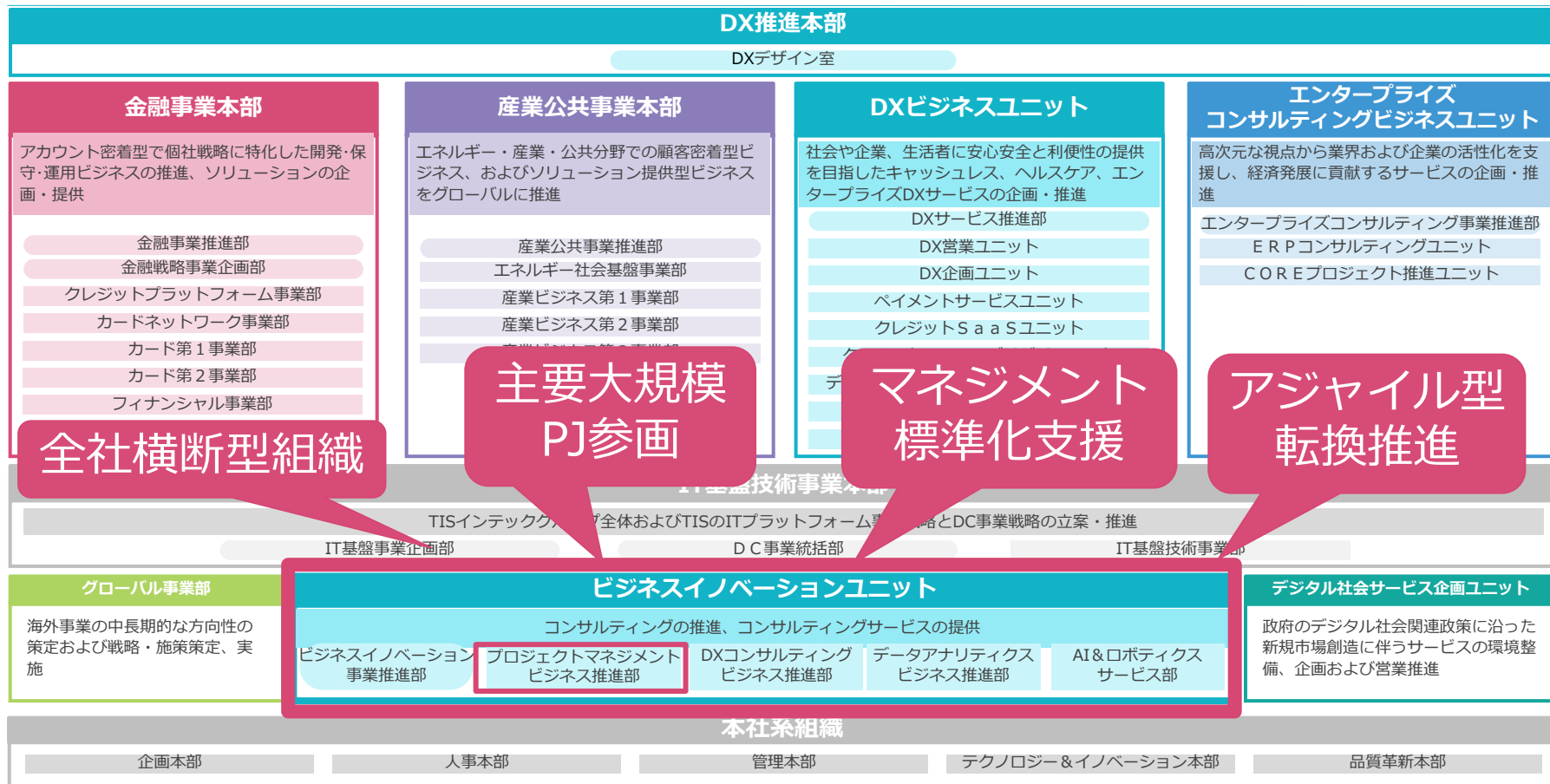
櫛 彩

© 2022 TIS Inc.

- 名前：櫛 彩（いちのき あや）
- 所属：TIS（株） ビジネスイノベーションユニット
プロジェクトマネジメントビジネス推進部
- 略歴：SEを経てPMOとして活動。大小様々なPJに参画。
- TISでの経歴：
 - 超大規模案件のPMO（100億超規模）
 - アジャイル開発のPMO（小規模の社内開発）
 - 海外関連会社のPMO組織支援（インドネシア）
 - RoboPMO(プロジェクト管理の自動化)のサービス企画、推進



所属組織の紹介



1. プロジェクトマネジメント領域における変化
2. プロジェクトマネジメントの高度化とは
3. TISの取り組み事例
4. さらなるプロジェクトマネジメントの高度化を目指して

1. プロジェクトマネジメント領域における変化

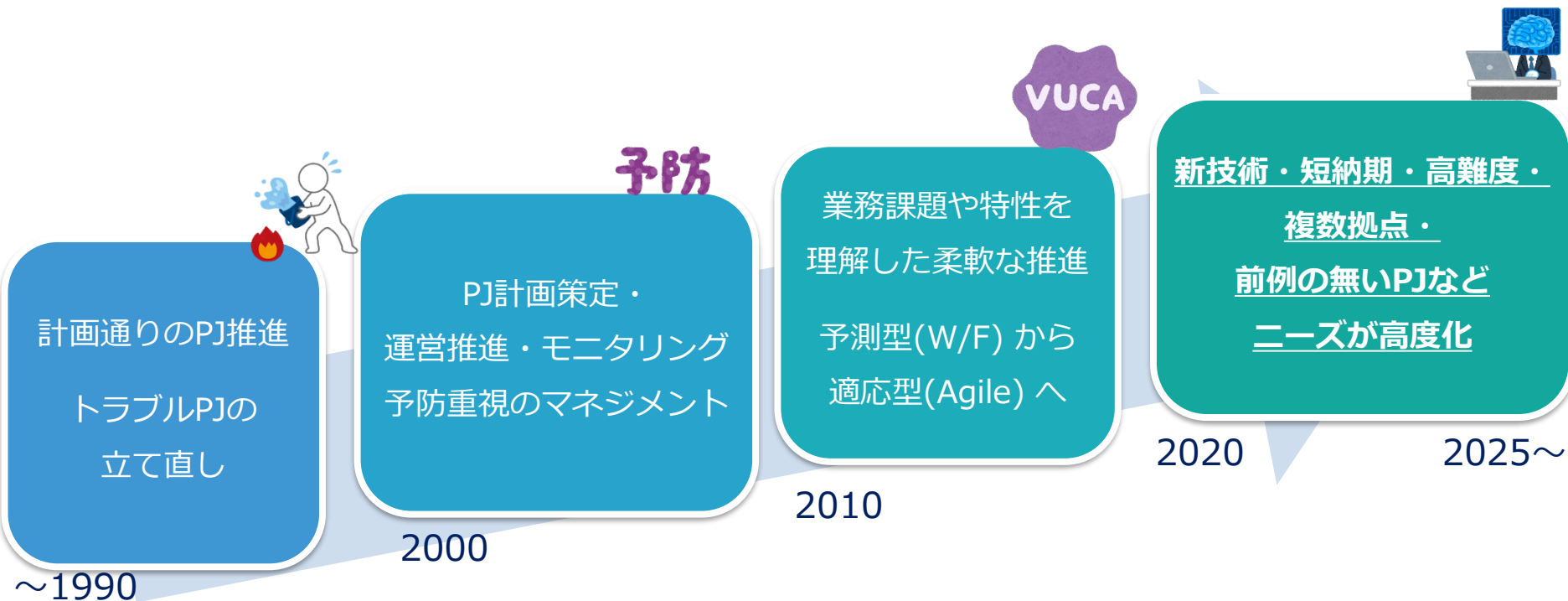
2. プロジェクトマネジメントの高度化とは

3. TISの取り組み事例

4. さらなるプロジェクトマネジメントの高度化を目指して

1-1. プロジェクトマネジメントにおけるニーズの変化

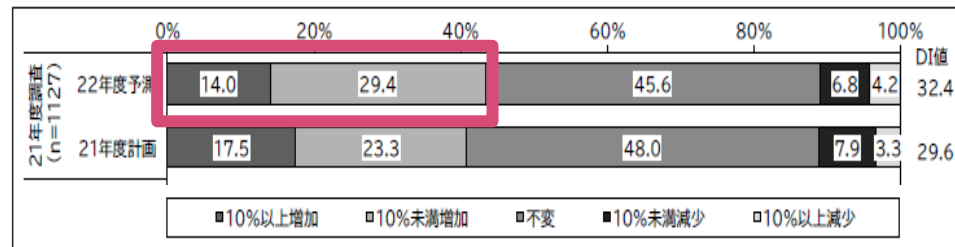
私たちに求められる役割はより高度に変化してきている。



1-2. 2018年のDXレポートを契機に変化のスピードも急加速

各企業がIT予算を増加し、DX推進活動を強化。
その影響を受け、ITプロジェクトは「数」と「複雑性」が増している。

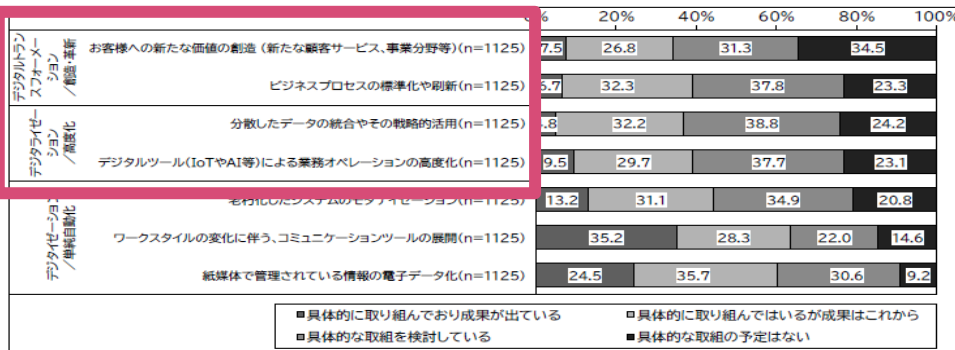
図表 1-1-1 年度別 IT 予算の増減



40%以上の企業で、IT予算を増加させている。

⇒ITプロジェクトの増加

図表 2-1-18 DX 推進の取組実施状況



高度化、創造・革新へとDXのフェーズが移行していく。

⇒プロジェクトの高難度化

出典：一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会
『企業IT動向調査2022（2021年度調査）』より

1. プロジェクトマネジメント領域における変化

2. プロジェクトマネジメントの高度化とは

3. TISの取り組み事例

4. さらなるプロジェクトマネジメントの高度化を目指して

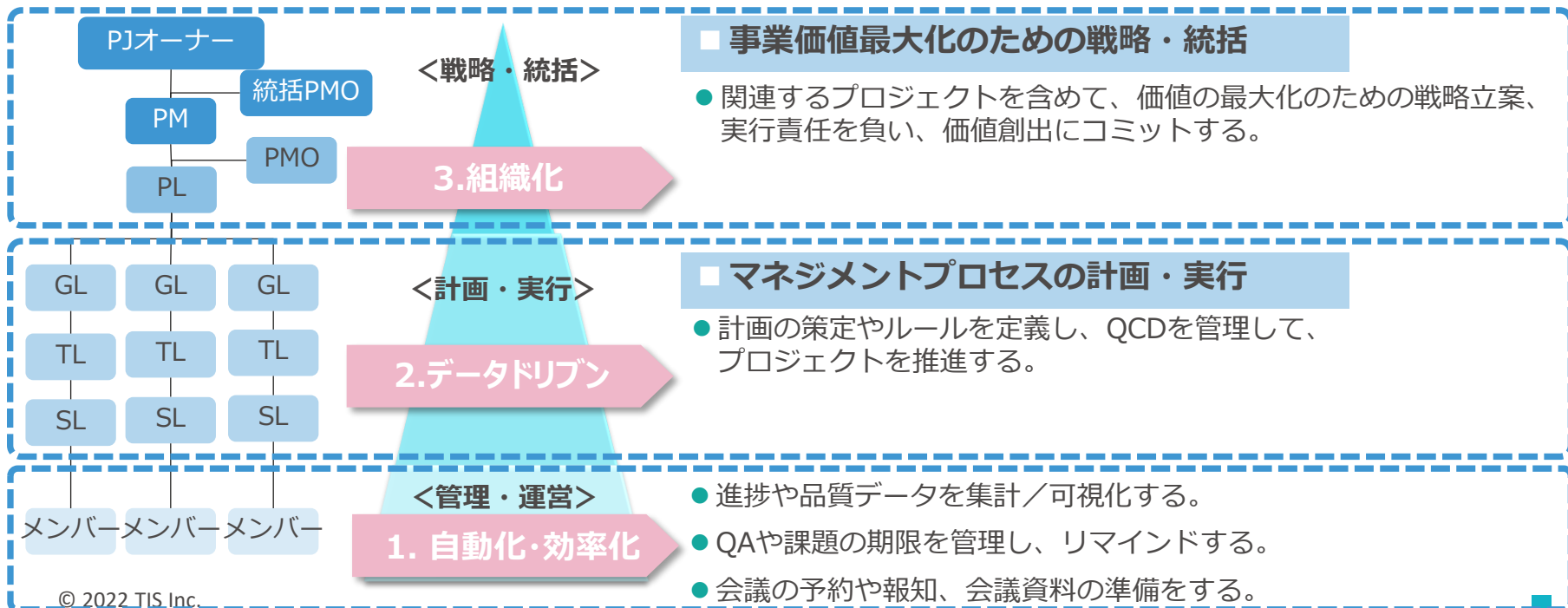
2-1. プロジェクトマネジメント高度化の全体像

人が実施するプロジェクトマネジメントは高度な作業に集約し、
管理・運営といった領域の作業は自動化されていく。

体制イメージ例

マネジメント体制

想定する役割／行動



2-2. プロジェクトマネジメントのDX

プロジェクトマネジメント自体が デジタルトランスフォーメーション（DX）の対象となる。

DX化

3.組織化 (デジタルトランス フォーメーション)

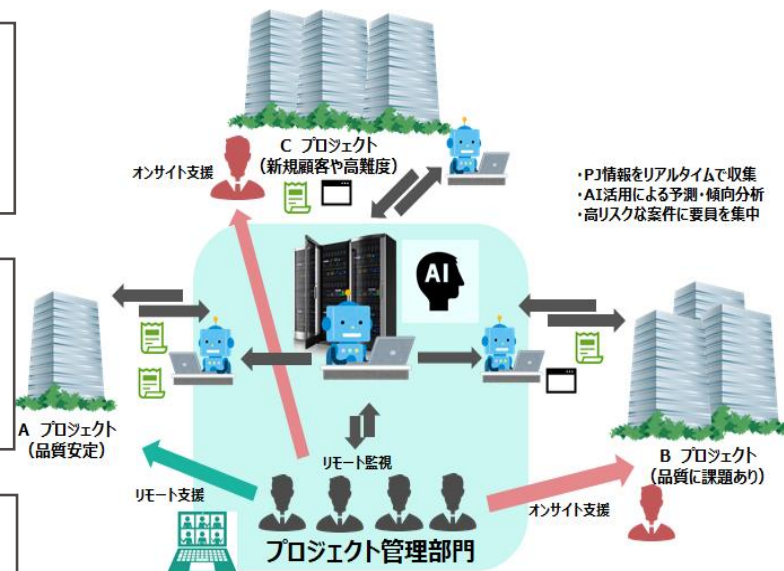
- 組織化されたマネジメント部隊が、AIを活用した予測・分析をもとに、より高度なマネジメントに注力する。

2.データドリブン (デジタライゼーション)

- PJデータの集中管理、分析により、リアルタイムに状況を正確に把握し課題やリスクに早期に対応できる。

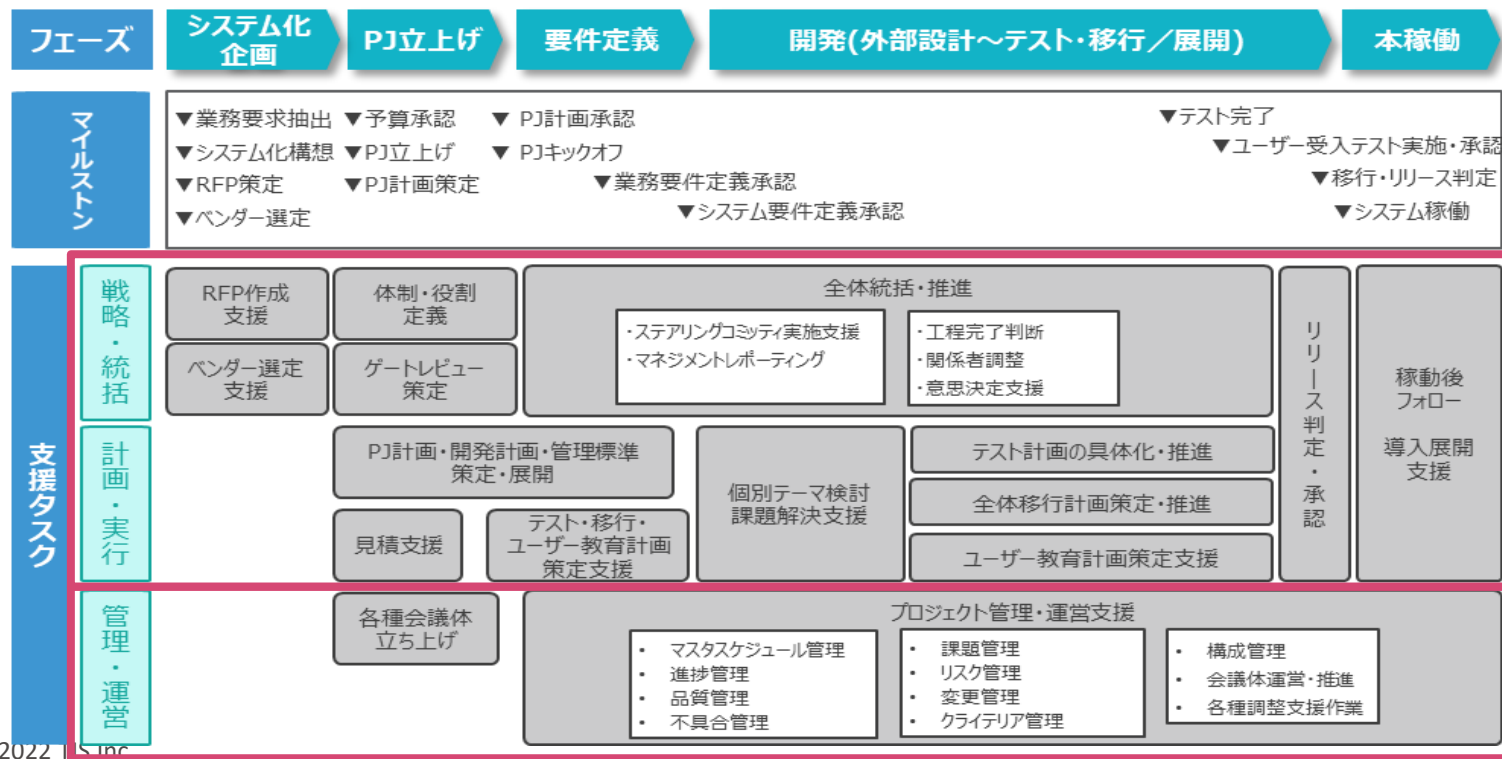
1.自動化・効率化 (デジタイゼーション)

- 定例業務、単純作業は自動化され、リモートから実行可能な状況になる。

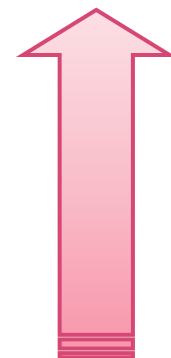


2-3. プロジェクトマネジメント高度化ー①自動化・効率化

定型業務の自動化から始まり、非定型業務へと展開されていく。



非定型



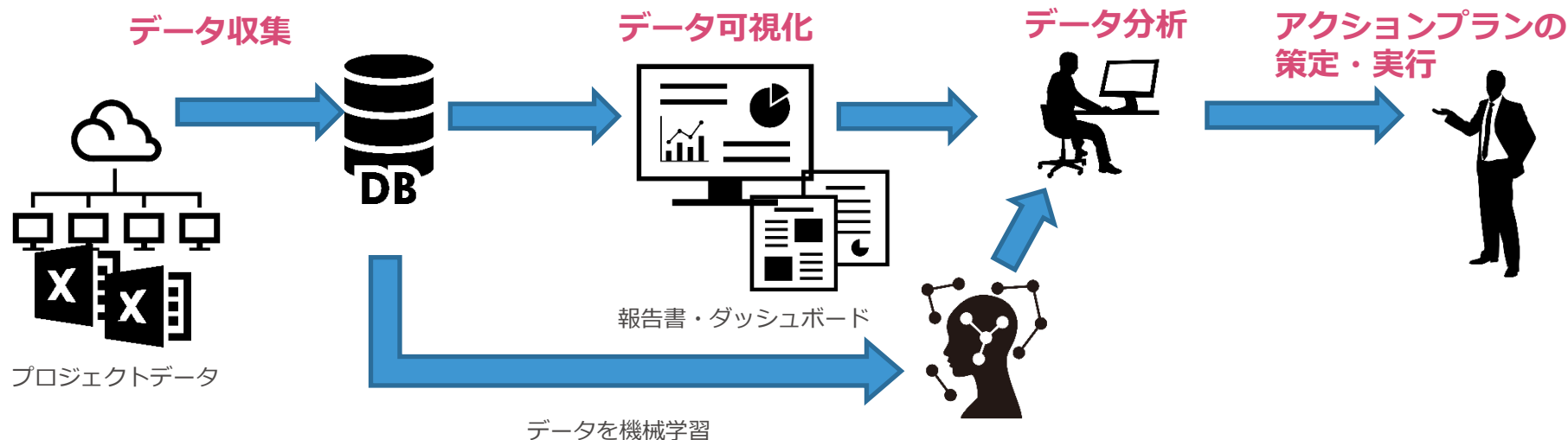
定型

経験や勘に頼った判断ではなく、プロジェクトの実データをもとに
次のアクションプランの策定・実行がなされる。

データ集計の自動化

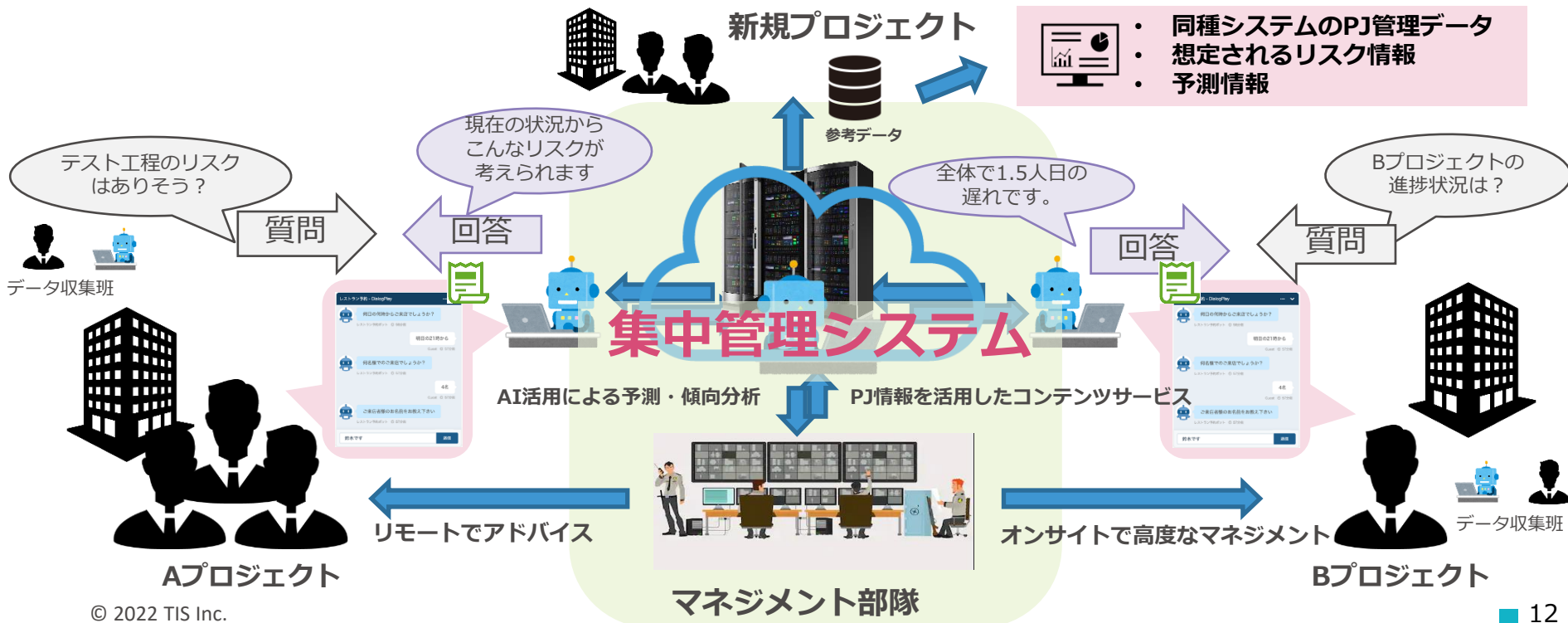
プロジェクト状況の可視化

意思決定



2-3. プロジェクトマネジメント高度化ー③組織化

自動化、データの可視化によりマネジメントの組織化が可能になる。



1. プロジェクトマネジメント領域における変化

2. プロジェクトマネジメントの高度化とは

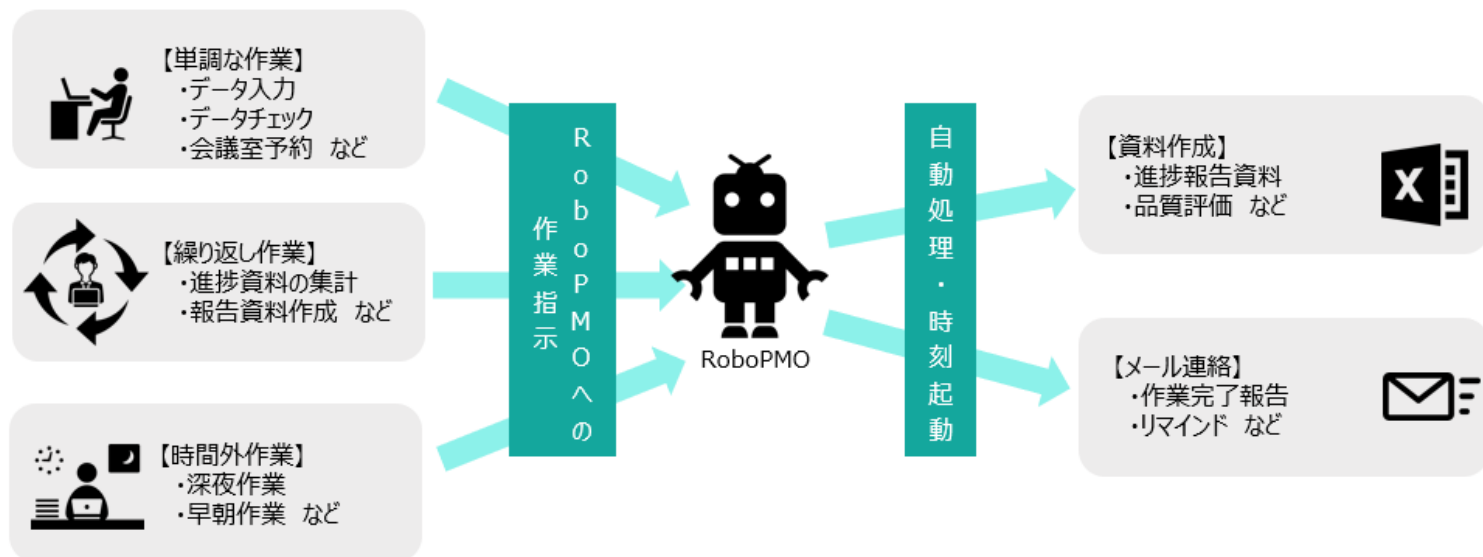
3. TISの取り組み事例

4. さらなるプロジェクトマネジメントの高度化を目指して

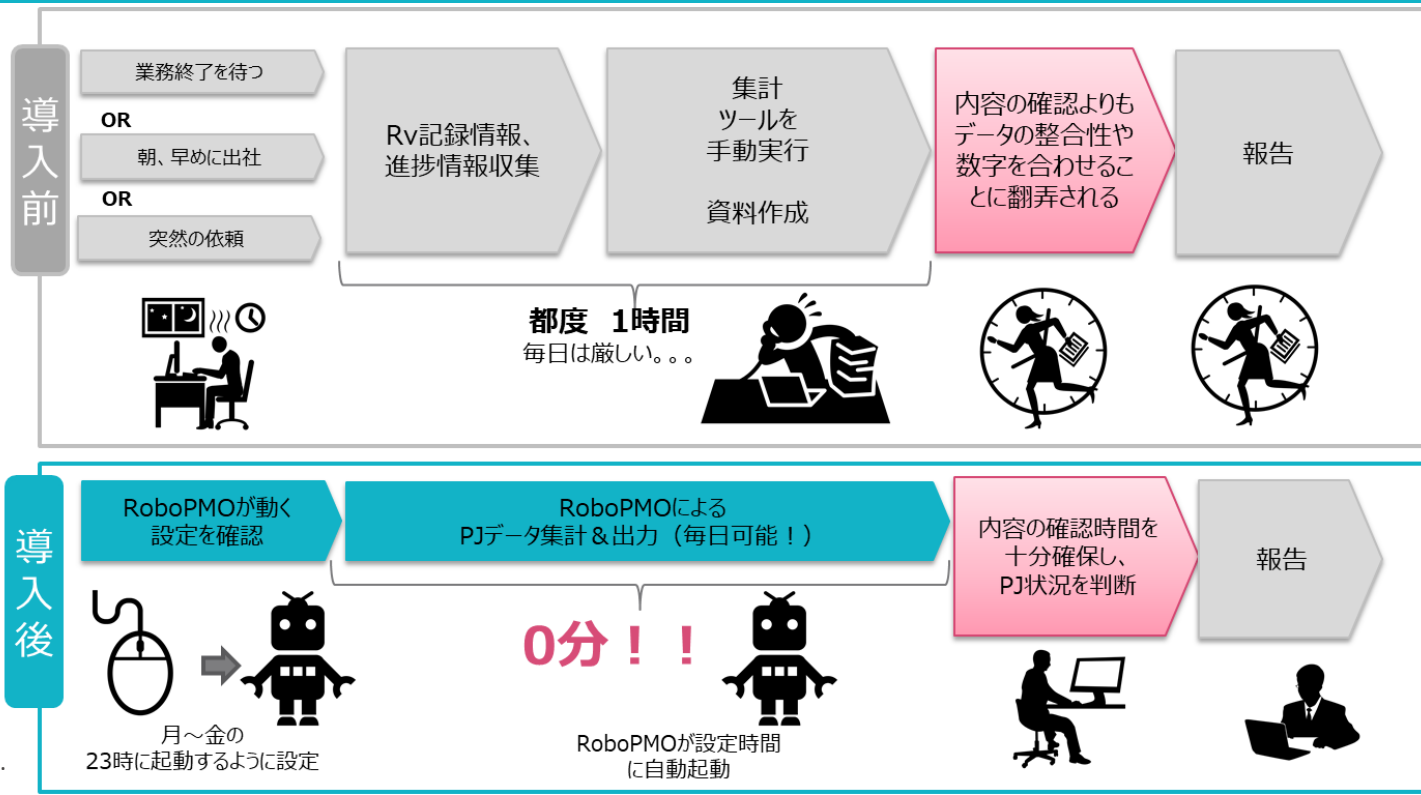
自社オリジナルツール（RoboPMO®）を開発し、現場で活用している。

RoboPMO

さまざまなWindowsアプリケーションを自動化するツールを複数用意し、時刻起動させる仕組みと、同時に稼働結果やPJ管理情報を蓄積する仕組みです。



RoboPMOの導入により、作業時間を削減しながら、質の高い報告ができるようになった。



RoboPMOの活用によりマネジメント工数の15%削減に成功した。

■案件プロフィール

- ・ 【業界】 金融
- ・ 【案件概要】 クレジットカード基幹システムの開発
- ・ 【案件規模】 1,700人月
- ・ 【案件の特徴】 マルチベンダーかつ多様な技術を用いた難易度の高い開発プロジェクト

■活用方法

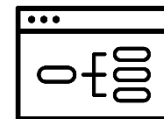
- ・ レビュー記録やテスト進捗をRoboPMOで夜間に日次自動集計し、翌朝の朝会で活用
- ・ RoboPMOで収集した品質データを基に、品質報告書のひな型を自動作成

■定量的な効果

- ・ 4名×5か月＝20人月分の工数のうち、約3人月分（451時間）を、RoboPMOが代替することで、
マネジメント工数を15%削減。（※結合テスト工程で測定）
- ・ 月間45h超の残業メンバー**ゼロ**。

プロジェクト状況確認の即時性に加え、以下のような効果があった。

- 集計対象データの誤りなど人為的なミスの撲滅。
- モニタリング頻度を上げることが可能となり、メンバーと十分なコミュニケーション時間を確保。
- 確認すべき観点や報告すべきデータが集計できる「書式」が準備されているため、若手PMのスキル補完を手助け。



1. プロジェクトマネジメント領域における変化

2. プロジェクトマネジメントの高度化とは

3. TISの取り組み事例

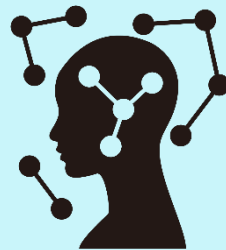
4. さらなるプロジェクトマネジメントの高度化を目指して

プロジェクトマネジメント分野における 非定型業務の高度化、効率化に向けて、AI活用の研究を実施中。

AIが活用できそうなテーマを40以上選定。
その中でAIの活用を実施した、以下の例について紹介する。

➡提案見積段階のPJプロフィールからの成否予測

Next Page



機械学習によるプロジェクトの成否予測からリスク要因を明らかにし、成功確率を高める。

このプロジェクトの
成功確率と**リスク**を
教えてください。



データ入力



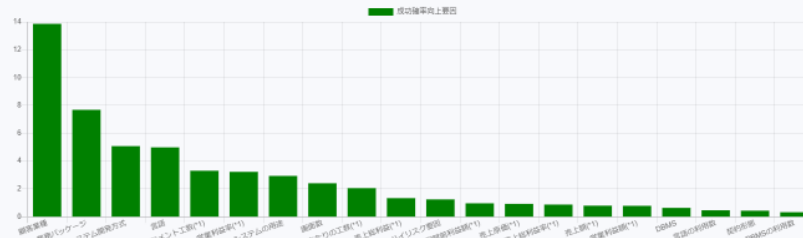
プロジェクト計画

診断結果

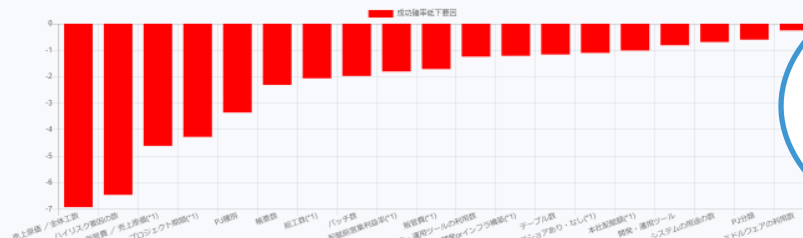
あなたが入力したプロジェクト
(XXXX基幹システム構築プロジェクト)の
成功率※1は60%です。

不芳化リスクがあります。スケジュール、推進体制、要員山積、マネジメント工数等、成功率を下げる要因の原因を分析して、PJ計画を再鑑ください。

1. 成功率を高めている要因



2. 成功率を下けている要因



判定

成功確率は60%です。
リスクは
・ 管理工数
・ PMの過去の経験値
・ 利益のバッファ etc

4-3. プロジェクトマネジメントにおけるAI活用の方向性

AIを活用することでさらに高度なプロジェクトマネジメントの実現を目指しています。

AIを主体にプロジェクト遂行。PMはAIを監視



AIがPMを監視



AIがPMを支援



データ化



■ AIのPM-AI主体のPJ管理-

(個々の開発者にAI PJマネージャ。設定やポリシーに従って、責任者や顧客へレポート。PMはAI判断を監視・補正)

人はクリエイティブな業務のみ行い、PM要員を最小限にする。

■ PMの最適化-AIの判断を見て選択-

(PJ状況報告の自動レポート・次のアクションの提案・PM判断のスコアリング・開発者へ自動的な督促・助言)

常に最適なプロジェクトマネジメントをAIとPM要員が追求し、改善する。

■ PMへ判断材料の提供-機械学習の適用 予測と認知-

(機械学習によるリスク予測・成否予測・過去事例との照合・PJ状況の可視化)

将来を予測し、過去の成功例を適切に利用して成功確率を上げる

■ PJ管理のデジタイゼーション- PJ管理でのデータ活用-

(PJ状況の可視化・PJ管理のシステム化[データ化] PJ管理の省力化 定型作業の自動化 統計的予測・指標値や参考値の出力により、データドリブンなPJ管理)

脱労働集約型業務。マネジメント工数を省力化して、コストを下げる。脱KKD。

※赤枠：現在の取り組み範囲

ご清聴ありがとうございました

ITで、社会の願い叶えよう。



<本資料の取り扱いに関して>

本資料は、著作権法及び不正競争防止法上の保護を受けております。資料の一部あるいは全部について、TIS株式会社から許諾を得ずに、複写、複製、転記、転載、改変、ノウハウの使用、営業秘密の開示等を行うことは禁じられております。本文記載の社名・製品名・ロゴは各社の商標または登録商標です。

- P.7：一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会
『企業IT動向調査2022（2021年度調査）』
https://juas.or.jp/cms/media/2022/04/JUAS_IT2022.pdf